

A photograph of two actors in traditional Chinese opera costumes performing on stage. The actor on the left is wearing a dark robe and a white headpiece, while the actor on the right is wearing a grey robe and a green headpiece. They are both in dynamic poses, with the actor on the right pointing forward. The background features a large, colorful mural of a dragon.

チケット発売
5月12日土

おしえ良寛の



狂言「二人袴(ふたりばかま)」

委嘱初演

弾き歌い『手毬～月の兎』

構成：田村 博巳 作曲：吉川 和夫

語り：山本 東次郎 演奏：鈴木 真為

狂言「宗論(しゅうろん)」

公演日

平成24年7月15日 日

開場13:30／開演14:00 ※託児所あります。事前にご予約ください。

会 場

新潟市北区文化会館ホール

無料駐車場320台完備

〈アクセス〉日本海東北自動車道「豊栄新潟東港IC」より6分、
新新バイパス「競馬場IC」〔豊栄IC〕より10分、JR白新線「豊栄駅」下車徒歩12分

入場料
全席指定

大人 3,500円
子供 1,000円(中学生以下)

|| チケット取扱所 || ○新潟市北区文化会館 ☎ 388-6900

○葛城コミュニティセンター ☎ 384-6077 ○ひゅーとびアインフォメーション ☎ 224-5622
○岡方コミュニティセンター ☎ 387-3331 ○新潟伊勢丹 ☎ 242-1111
○早通コミュニティセンター ☎ 386-3339 ○新潟県民会館チケットセンター ☎ 223-1200
○木崎コミュニティセンター ☎ 387-3351 ○小日向電気 ☎ 387-2277
○長浦コミュニティセンター ☎ 387-2061 ○金泉堂 ☎ 387-5101
○BAKERY CAFE テミタイ ☎ 258-5394

友の会賛助会員／NANICS、青い鳥保育園

後援／全国良實会、NST 写真提供／NPO法人 魁文舎

良寛の長歌「月の兎」の断片。この逸話は「大唐西域記」や「今昔物語集」にも見える。良寛は兎の犠牲精神に感動し、幾種類かの「月の兎」を詠んでいる。

ふりまはねをわかれめくしとあぬ。うゑもくへーた。えこさき。わい。ま。れ。み。や。ふ。ふ。え。
まけろ。い。な。わ。く。そ。の。も。つ。せ。と。に。ち。か。さ。づ。け。お。ふ。さ。と。い。ふ。こ。と。は。わ。ら。う。い。ふ。で
あてげろ。ふ。じ。あ。え。わ。れ。お。い。し。ま。ふ。ふ。向。れ。こ。し。葉。上。に。は。う。て。ぬ。杜。ね

月の兎

袖裏毬子

[illegible]

狂言のおしえ 良寛のころ

〈プログラム〉

一部 狂言『二人袴 ふたりばかま』
シテ(親) 山本 則俊
アド(舅) 山本 則孝
アド(太郎冠者) 山本 則秀
アド(聲) 山本 凛太郎

今日は最上吉日、舅は聲入りの支度をして待っています。(聲入りとは、先に妻を迎え、それから妻の父親に挨拶に行くという中世の結婚の儀式)ところが当の智ときたら、正装用の長袴も親に履かせて貰う始末。大人になりきれない息子、子離れできない親。見栄や体裁にこだわり、振り回される人の世の常を、一枚の袴を通し、楽しく暖かく描いています。

委嘱初演

※弾き歌い「手毬～月の兎」

—良寛の長歌による—

構成 田村 博巳
作曲 吉川 和夫
語り 山本 東次郎
箏 鈴木 真為

子供たちと交わる良寛の逸話は数限りありません。良寛は手毬上人として、人々の間に聞こえていました。子供たちと遊び興じる良寛を通りかかった人が嘲るように見て、どうしてお前さんはそんなことをしてごさるのだ、と咎めます。良寛はそれに対し何も答えず、ただ頭をたれているだけ、……

長き春日を暮して、すでに陽は落ち始めています。子供たちも遊び疲れて昔話をせがまされると、良寛は釈迦の前世を語る「本生譚」の『ジャータカ物語』や『今昔物語』に出てくる「月の兎」の話をしました……

二部 狂言『宗 論 しゅうろん』

シテ(浄土僧) 山本 東次郎
アド(法華僧) 山本 則重
アド(宿主) 山本 則秀

旅の途中で出会った二人の僧、一人は日蓮宗、もう一人は浄土宗だったのです。始めは良い連れが出来たと喜んでいましたが、相手の宗旨を知って急に機嫌が悪くなります。実はこの二つの宗派はたいへん仲が悪いのです。二人は互いに、この際徹底的にやり込めてやろうと、終に「宗論」に及びます。同じ釈迦の教えを奉じながら、それぞれの宗旨に固執し、反目しあう僧侶たち、そんな人間の愚かしさを狂言はカラッと描きます。

※狂言のおはなし

山本 東次郎



〈プロフィール〉



【構成】
田村 博巳
Hiromi Tamura

1981年より国立劇場(日本芸術文化振興会)勤務。95年より静岡音楽館AOI企画会議委員。現在、国立劇場芸能部副部長。民俗芸能、雅楽、声明(仏教音楽)を中心に日本の伝統芸能公演を企画制作し、民俗儀礼や口頭伝承の研究に立脚した創作を舞台芸術作品として構成演出する。また、古典芸能の保存・継承とともに、作曲家等と協同して、伝統の素材を現在の視点でとらえた意欲的作品を数々発表する。これまでに、国立劇場(88～99年)および国立文楽劇場(2004～06年)主催の公演制作をするほか、本多劇場小劇場プロデュース公演「伝統芸能シリーズ「楽の庭I～IV」(97～2000年)やスパイラル声明コンサートシリーズ「千年の聲vol.1～20」(98年～現在)などで継続的に演出している。



【語り】
山本 東次郎
Tojiro Yamamoto

徳川幕府の武楽の伝統を継承する大蔵流狂言の家柄。初世山本東次郎則正に発する。三世東次郎は「乱れて盛んになるよりも、むしろ堅く守って滅びよ」とその高い志を説き、武家武楽にふさわしい品格ある剛直な芸風を目指した。現在、長男の四世東次郎則壽、三男則俊、及びその息子たちが杉並能楽堂を拠点に公演、普及活動に努めている。又、能・狂言の復曲・新作にも意欲的で、平成23年12月には横浜能楽堂で、大蔵流十三世家元で狂言台本「虎明本」にあらずしのみ残る「祇園」を300年ぶりに復曲上演した。りゅうとびあ能楽堂主催の春・秋の能楽鑑賞会にはたびたび出演し、平成24年1月の新作能「影媛」公演には一門総出演した。芸術選奨文部大臣賞、紫綬褒章、日本芸術院賞、を受賞。



【作曲】
吉川 和夫
Kazuo Kikkawa

1954年名古屋市出身。東京芸術大学大学院修了。作曲を戸島美喜夫、野田暉行、間宮芳生各氏に師事。室内楽曲、室内オペラ、合唱劇などを中心に作曲活動を展開。1987年、萩京子、寺嶋陸也とともに作曲家グループ「絢国民楽派」を立ち上げる。1996年、NHKオーディオドラマ「ソフィアの世界」の音楽で放送文化基金賞受賞。2004年には新作雅楽「木々の記憶」がニューヨークで初演。近作には合唱団じゃがいものための合唱劇「ボラーノの広場」「銀河鉄道の夜」、ひとりオペラ「にぎりえ」などがある。CDには「トゥッパーマー〜吉川和夫作品集」「水野佐知香plays 絢国民楽派」(コジマ録音)、「魂の行方」(フォンテック)、国立劇場委嘱作品シリーズ「現代の日本音楽6「論義ビヂェリアン大祭一聲明と狂言の語りによる」(春秋社)など。宮城教育大学教授。



【演奏】
鈴木 真為
Mai Suzuki

東京都出身。山田流箏曲を谷珠美師に師事。河東節(浄瑠璃)を人間国宝山彦節子師に、河東節(三味線)を人間国宝山彦千子師に師事。東京藝術大学大学院音楽研究所科修士課程終了。在学中、安宅賞、アカンサス音楽賞、同声会賞受賞。第12回賢順記念全国箏曲コンクール銀賞受賞。第22回「明日を担う新進の邦楽舞踊鑑賞会」出演。2007、2010年「鈴木真為演奏会一歌・箏・三弦による<言の庭>」開催。(財)日本伝統文化振興財団主催第10回邦楽技能者オーディション合格。CD「山田流箏曲鈴木真為」リリース。NHK邦楽オーディション合格。NHKエテレ「にっぽんの芸能 花鳥風月堂・芸能百花繚乱」出演。古典から現代まで、NHK-FM、TV、CD、小学校教科書教材DVD等収録多数。